

## 実績報告書

届出者	住所	東京都墨田区本所1-3-7	氏名	ライオン株式会社 代表取締役社長 執行役員 濱 逸夫
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主たる事業：洗剤、柔軟剤、歯磨、歯ブラシ、ハンドソープ、シャンプー、リンス、化粧品、薬品等の製造販売 大阪工場：洗剤（衣料用、台所用）、柔軟剤等の製造 （旧・現）大阪オフィス：「主たる事業」に記載した製品の販売		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

#### (2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	14,541 t-CO <sub>2</sub>	8,185 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	15,379 t-CO <sub>2</sub>	8,790 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	4.2 %	22.8 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	4.1 %	22.4 %	35.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

・大阪工場では生産量を、大阪オフィスでは売上高をそれぞれ原単位の分母として設定し、それらの重み付け合算により求めた換算生産量を全体の原単位として設定しました。なお、対策計画書において、換算生産量は3年間で約1.5%の増加を見込んでいましたが、第1年度は基準年に比べて13%減少、第2年度は第1年度よりも5%増加、第3年度は第2年度より4%減少した結果、第3年度は基準年に比べて12%減少しました。

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

・大阪工場では粉末洗剤の原料となるアニオン界面活性剤を製造していましたが、衣料用洗剤市場の変化に伴う生産効率の向上のため、製造拠点を千葉工場に集約し大阪工場での生産設備が停止しました。その結果、①製造設備を稼働するための電力使用量、ボイラー燃料用のLNG使用量が大幅に減少しました。また、②生産活動においても、設備運転条件の見直し・効率化、省エネ・高効率設備の導入を推進しました。一方、③大阪オフィスでは昨年8月末に、老朽化したビルから省エネ・環境配慮型の

テナントビルに移転し、エネルギー使用量の削減を図りました。  
 以上、①、②、③により、計画期間3年目の原単位は、3年間の目標3%を大幅に上回る36%もの削減を達成いたしました。

(2) 推進体制

・当社は、全社的な環境管理活動を推進するため、担当役員を委員長とし、生産、事務営業、研究、物流、購買等の各部門が出席する環境保全推進委員会を年2回以上開催し、全社環境戦略として、温室効果ガス削減、水使用量削減などの環境目標を策定し、目標に対する計画の進捗を確認するとともに、今後の方針、対応策などについての審議を行い、継続的な改善を図っています。

・大阪工場は2001年に、他工場と一括でISO14001の認証を取得し、2016年にはISO14001の2015年版への移行を完了させ、最新の環境マネジメントシステムに基づいた管理を継続しています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215)	変電所を6ヶ所→4ヶ所へ統合化 (年間61.9t-CO2削減) 変電所の統合化	2015 年度
		人工排熱				2015 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218)	包装工場の蛍光灯をLED照明に更新 (蛍光灯 640ヶ、水銀灯 11ヶ) (年間47.8t-CO2削減) LED照明の採用	2015 年度
		人工排熱				2015 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215)	乾燥炉希釈ブロワー(37KW)のインバーター化 (年間27.5t-CO2削減) インバーター化の採用	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1114)	蒸気圧縮エアーの漏れ点検と定期修理の推進した。 蒸気・圧縮エアーの漏れ点検	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1126)	H29年8月のテナントビルへのオフィス移転により、8:00～18:00以外の時間については、エリア別の消灯推進を図り、最終21:00の退館、全館消灯を自動化した。 不要時の照明消灯、感知式照明の導入	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1126)	ノー残業週間(毎月第2週)、早帰りデー(毎週水曜日)を設定、及び20時以降の残業自粛により在社時間短縮による早時消灯を実施。 早時消灯、ノー残業週間の継続	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1218)	H29年8月のオフィス移転に伴い、移転先ビルが設置している調光式照明に準じており、LED化については、行わない方針に変更。 照明のLED化推進	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1127)	H29年8月のオフィス移転に伴い、本件についてはビルオーナーの管理下となった。 デマンド監視制御盤活用	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (5111)	H29年8月のオフィス移転に伴い、本件についてはビルオーナーの管理下となった。 空調機制御運転	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215)	エネルギー使用量を考慮し、純水装置を電気式から混床式に更新(年間42.5t-CO2削減) 純水装置の更新	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215)	必要冷凍能力に合わせ、冷凍機を台数制御タイプに更新(年間7.0t-CO2削減) 冷凍機の更新	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218)	厚生棟および包材倉庫の照明をLED化 (13.1t-CO2削減) 照明のLED化推進	2016 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122)	製造工程変更(脂肪酸メイル外中和)に伴い、80℃温水使用系列を見直しし、完全停止 (102.0t-CO2削減) 80℃温水系列の停止	2016 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
	レ	平準化				

14	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1123) 高圧スチームヘッダー廃熱回収	蒸気ドレンを回収し、温水タンクへ還元して、廃熱利用 (18.7 t-CO2削減)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	大阪工場	コード (5221) ボイラー5号機 の更新	老朽化に伴い、ボイラーを高効率タイプに更新 (7.3 t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

## 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (2112)  実績把握と フィードバック	リース会社のリックスと連携、速度や急発進等のデータを入手し(テレマティクスデータ)、安全運転管理者や職制と同情報を共有し、対象者への指導、啓発を継続している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (2121)  低燃費車への移行促進	リース契約中の営業車の超・低排出ガス車への計画的な更新を推進し、H29年度88%導入済み。旧式営業車のリースアップ期間が残り2年であり、2年後の全車入れ替えを計画している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (2123)  エコドライブの 取り組み	テレマティクスを活用し、アイドリング、急発進、急加速等のデータを管理者や本人にフィードバックし、注意喚起や改善意識の向上を図る等、エコドライブの啓発を推進。ドライブレコーダーも導入し、安全性向上にも努めている。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

## (4)その他の抑制対策

<p>1 全社での省エネの取り組み          当社は、洗剤の製造工程の技術革新による乾燥設備のエネルギー負荷低減や、生産拠点の集約化などに取り組み、これまでに大幅なCO2排出量の削減を実現しています。          H29年(2017年)には、関係会社を含めた国内ライオングループ全体で、H2年(1990年)に比べ、売上高原単位で47%のCO2排出量削減を達成しました。          今後更にH32年(2020年)には、同じくH2年(1990年)比で売上高原単位49%以上の削減を目標としています。</p>
<p>2 温室効果ガスの排出等の抑制に関する製品の開発          当社は、製品の内容物の原料を石油系から、大気中のCO2を増加させない(カーボンニュートラル)原料である植物系への切り替え、および製品廃棄時や物流におけるCO2排出量削減を図るための容器のコンパクト化などに取り組んでおります。          今後製品廃棄時に排出されるCO2排出量を、H32年(2020年)にはH2年(1990年)比で総量41%以上、売上高原単位53%以上削減することを目標としています。</p>
<p>3 森林整備活動の推進          当社は従業員の環境意識を高め、環境に配慮した事業活動を行っていくことを目的に、H18年10月に山梨市水口地区の山梨市有林(約65ha)に「ライオン山梨の森」を開設し、従業員による森林整備活動(植樹、間伐、下草刈り、枝打ち)を行っています。社員ボランティアによる活動の他、新入社員研修への導入も図り、次世代育成の一環としての地元の小学生による植樹、地元の方々との交流なども行っています。「ライオン山梨の森」(55ha)のCO2吸収効果は269t-CO2/年と試算されています。</p>

# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区京橋1丁目1番1号	氏名	ラサ工業株式会社 取締役社長 庄司 宇秀
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ラサ工業(株)は、化成品部門・電子材料部門・機械部門で事業を展開。化成品部門では、様々な産業で使用される基礎化学品から最先端分野に対応する高純度薬品まで幅広い製品の生産、販売を行っている。最先端分野であるエレクトロニクス関係もてがけ、各種高純度リン酸塩や高機能塩化鉄の製造。また、エッチング後の使用済みの塩化鉄を回収しクリーニングした後返却するというリサイクルを考慮した環境問題に対しても積極的に取り組んでいる。大阪府内には化成品部門として大阪工場と大阪営業所がある。また、機械部門として大阪営業所がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	7,725 t-CO <sub>2</sub>	8,245 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	8,312 t-CO <sub>2</sub>	8,869 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.6 %	-3.2 %	-4.3 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	%	-2.9 %	-3.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 生産量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第3年度(平成29年度)は、-5.9%の削減率となりました。温室効果ガスの排出量が増加した原因としては、製造設備増設に伴う生産量の増加と熱効率の悪い製品の製造が増加したためです。今年度は、コンプレッサーの更新を行い、機器の省エネ化を行う予定です。今後も継続して削減できるよう対策の計画に従い温室効果ガスの低減に努めていきます。</p>
--

(2) 推進体制

大阪工場は、ISO14001を認証・取得(審査登録)し、温暖化対策に取り組むために環境マネジメントシステムのプログラムに取り込み、温暖化対策の抑制体制の推進組織として、各部門の環境管理事務局員が各部門での省エネルギー活動を推進しCO2削減を図っています。また、工場長を責任者とする環境管理委員会で、対策の決定、進捗状況の確認、現状改善等を決定します。本体制は、定期的に開催することで、継続・維持されます。その他営業所についても空調管理等の節電に取り組んでいきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明設備の導入	大阪工場内投光器のLED化。300Wリフレクターランプ→33WLEDランプ 300Wバラストレス水銀ランプ→33WLEDランプ (年間23t-CO2削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122) 空気調和設備の運転改善	原料凍結防止のための夜間エアコン稼働を停止する。平成27年度に運用を開始し、平成28年度以降も継続運用中。 (年間20t-CO2削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2015 年度
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明設備の導入	工場内水銀灯のLED化。 (年間削減量は導入数による。)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 高効率モーターへの変更	モーターのトップランナー化によるプレミアム効率への変更。平成28年度以降も継続。 (年間削減量は導入数による。) (平成27年度1.3t-CO2削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1123) 蒸気ドレンの回収	蒸気ドレン回収の導入を検討をする。	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) インバーターの導入	ファン、ポンプ、ブロワーのインバータ化。 (年間削減量は導入数による。)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
7	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5112) 照明の間引き	事務所内の照明の間引きの徹底や可能な範囲で窓際の照明の消灯を徹底を、平成28年度以降も継続運用中。	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
8	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 空調適正温度管理	冷暖房の温度設定を決定し、運用管理しており、平成28年度以降も継続運用中。	2015 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
9	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 空気供給元の変更	計装空気を使用しているところをコンプレッサーから空気を供給するように変更する。 (年間5t-CO2削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2016 年度
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) 熱損失防止	ボイラーにカバーラップを取り付けることにより、放熱ロスを低減させる。 (年間8t-CO2削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2016 年度
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) コンプレッサー更新	コンプレッサーの更新による機器の省エネ化。 (年間35.4kL/年削減)	2017 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 電気炉の稼働回数の減少	電気炉を使用する製品の仕込み量を変更し、稼働回数を減少させることにより省エネ化を図る。 (年間26.2kL/年削減)	2017 年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				2017 年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
-----	-------------------------	--	------	------	-------	--------------

1		GHG 排出		コード		年度 ~ 年度
		人工排熱				

(4)その他の抑制対策
